

柏税務署長賞

「千葉県子ども成長応援臨時給付金」から感じたこと

柏市立松葉中学校 第三学年 梶川 凜空

八月八日、市役所から私にある手紙が届いた。「千葉県子ども成長応援臨時給付金」と書かれたそれは、千葉県に住んでいる小学一年生から中学三年生までの児童に一万円ずつ振り込む、ということだった。その目的は、物価高騰の影響を踏まえ、習い事や体験活動などにかかる経費の負担を軽減し、将来を担う子供たちが豊かな成長につながる機会を得られるようにするためとのことらしい。

そこで私はこれの総額が気になり、計算してみた。千葉県の小学生の人数が三十三万三千四百七人、中学生の人数が十五万七千二百三十六人だから、対象人数は合計四十六万六千四百四十三人となる。すると総額は、四十六億六千四百四十三万円であることが分かった。この数字は、千葉県の合計歳入である約二兆二千億円と比べると〇・二パーセントであることが分かった。

私は、正直もう少し良い方法もあったのではないかと思う。なぜならこの方法だと、小中学生は自分の娯楽のためにこのお金を使ってしまうと思ったからだ。そうやってしまうとこの目的にそぐわなくなってしまう。そこで私は、個人ではなく習い事を教える側にお金を給付すればいいのではないかと考えた。そうすることで、自分たちの収入は自分たちのために使うことができ、習い事に係る経費の負担を軽減することもできる。さらにこの方法なら、小学生未満の子どもでもこの恩恵を受けることができる。これからは部活動も外部に委託することになるから、その費用も税金である程度軽減することができるようにすれば便利だと思う。

他の税金の使われ方についても調べてみると、老後の保障に使われているものの方が子供のために使われているものよりも多いことが分かった。少子高齢化対策が必要になっている昨今、この現状は良い方向には向かえないと思う。現に、このままいくと税収入が減っていく、代わりに使用用途と税支出は増えていく。すると、子どものために使うことのできる税金が減ってしまい、また産みづらくなる。そうして悪循環になっていき、取り返しがつかなくなってしまう。だから、わたしたちは税金の使い方をもっとよく考える必要があると思う。そのためにも、一人ひとりが税金について知り、理解を深め、その使われ方に関心を持ち、自分の考えを選挙などで政治に反映させていくことが大切である。私は、これからはそのような視点も忘れずに生活していきたい。